

平成29年度決算

歳出ベースの決算額は一般会計260億5747万円、平成28年度比4億8095万円増となりました。特別会計等を加えた総計は402億4279万円となりました。

歳入総額は265億9397万円、内自主財源は113億3576万円、依存財源は152億5822万円になります。自主財源に占める市税は80億82万円です。

歳入・歳出を市民一人当りに換算すると、市税が13万7038円（前年比206円増、東京都26市平均17万613円）、歳出が44万6312円（前年比9510円増、東京都26市平均37万4848円）となります。

市債（借入金）残高は71億4871万円、基金は97億133万円になります。

財政力指数は0.786で前年度比0.008ポイント増加しましたが、東京都26市中第24位で財政力の弱い団体であると言えます。

経常収支比率は90.7%で前年度より0.4ポイント減少しています。

事業ごとのコスト

福生市では、平成28年度から地方公会計制度を導入しました。平成29年度は2回目の決算となり、経年比較を示せるようになりました。

都内で最初に導入した町田市では、決算ごとに事業を選びその事業にかかるコストを公表していま

す。福生市ではそこまでは行っていませんが、勝手に6つの事業を選び町田市を例にコストを計算してみました。ここに代表例として「収集運搬事業」を載せました。

これは市内の一般家庭及び集合住宅の集積所から排出されるごみを収集し処理施設まで運搬する事業で、1世帯当たりの年間コスト

を算出しました（図の左下）。このような計算が新しい決算資料からできるようになりました。人件費とか減価償却費に関して民間企業と違いがありますが、改良されていくものと思われれます。

なお、全体は私のホームページから全体を見ることができま

www2.otsu.co.jp/gallery.html

3 収集運搬事業

環境課

1 事業の紹介

市内の一般家庭及び集合住宅の集積所から排出される廃棄物を可燃ごみ、不燃ごみ、資源、粗大ごみの種類ごとに収集し、処理施設まで運搬します。

2 事業の成果

成果指標名	2016年度	2017年度
ゴミ及び資源の収集量	13,725 トン	13,495 トン
再生利用状況（可燃物）	2,007 トン	2,089 トン

市内の各家庭から排出されたごみ約9,771トン及び資源物約3,724トンを収集し、適正に処理または資源化を行う施設等へ運搬しました。

3 これからの課題

未だに焼却不適物（缶・ビン・ペットボトル・50cm以上のもの等）や資源物（紙類等）が混入しているため、適正排出への周知徹底が課題です。

4 行政コスト計算書

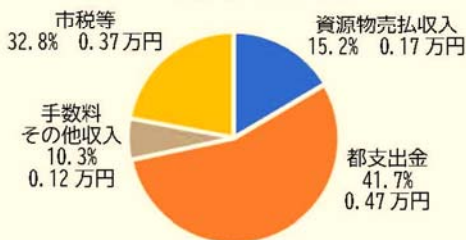
コスト	3億4,184万円	割合	収入	2,500万円	割合
人にかかるコスト	887万円	2.6%	資源物売払収入	5,184万円	15.2%
業務にかかるコスト	3億3,297万円	97.4%	都支出金	1億4,238万円	41.7%
給付にかかるコスト	0万円	0.0%	手数料その他収入	3,530万円	10.3%
減価償却費	-	-	市税等	1億1,232万円	32.8%

収集運搬業務は全て業者に委託しているため、人にかかるコストは事業（委託）を管理する職員の人件費です。また、本事業で利用する運搬車や機器類の減価償却費は委託先で計上されるため、業務にかかるコストに含まれます。

5 貸借対照表

福生市では貸借対照表は部単位で作成されるため、事業ごとの資産・負債は計上されません。

1世帯あたりコストにかかる財源構成



1世帯あたりコスト 1.1万円
平成30年3月末時点の世帯数 30,428世帯

